

平成30年度 加須市議会

議会運営委員会行政視察報告書

1 日 程

平成30年7月23日（月）～25日（水）

2 視察先及び調査事項

（1）北海道函館市

・議会改革の取組みについて

（2）北海道厚沢部町

・議会報告会について

3 出席委員等

委員長 鎌田勝義

副委員長 齋藤和雄

委員 竹内政雄 鈴木久才 大内清心 小坂徳蔵 吉田健一

議長 福島正夫

随行者 議会事務局 事務局長 高橋敦男 主幹 三宅昌之

4 調査結果

北海道函館市議会及び厚沢部町議会の取組を参考にして、本市の議会運営を見直すとともに、議会報告会を開催していきたい。

なお、調査の詳細は、次のとおり。

《 北海道函館市 》

◆ 函館市の概要

【人口】 265,979人 【面積】 677.87km²

【H30 一般会計予算額】 134,990,000千円 【議員数】 30人

函館市は北海道南端の渡島半島南東部に位置し、天然の良港である函館港によって北海道と本州を結ぶ交通結節点、道南地域の中心都市として発展してきた。

市街地は陸繋島となった函館山(臥牛山)から函館平野や亀田半島に繋がる砂州にあり、函館港は形が巴状になっていることから別名「巴の港」とも言われ、市章に採用している。また、津軽海峡、太平洋、内浦湾(噴火湾)の3つの海に囲まれ対馬海流(暖流)の影響を受けるため海洋性気候となり、北海道内では比較的降雪量が少なく穏やかな気候となっている。

函館都市圏は観光業の他に、水産業や食品関連産業、医療福祉を主要産業としてきたが、一方で人口減少が著しく、2014年(平成26年)4月1日から市域のすべてが「過疎地域」に指定されている。



◆ 函館市議会の議会改革の取組について

○説明者 函館市議会 議事調査課 宮田 至 課長

(1) 取組の経過

- ・平成18年2月 議会改革ワーキンググループの設置
- ・平成19年3月 議会改革報告書
「議会本来の機能や役割をいかに発揮するか」を視点に置いた議会改革の検討結果
- ・平成20年11月 自治基本条例検討会報告書
自治基本条例案審議の参考とするため、議会本来のあり方を調査研究した報告書
- ・平成24年11月 議会報告会を開催(各常任委員会ごとに開催)
議会報告会検討会議を設置し、継続開催の必要性や充実した報告のための見直しを検討
- ・平成25年8月 議会報告会検討会議中間報告書
平成25年度の議会報告会の実施に当たって、委員会の審査・調査のあり方の再確認

- ・平成26年2月 議会報告会検討会議最終報告書
平成25年度の議会報告会開催後、市民意見や明らかになった課題を踏まえた検証と、今後のより良い報告会を開催するためのあり方をまとめた報告書
 - ・平成26年5月 議会活性化検討会議を設置
 - ・平成26年9月 函館市議会の活性化 勉強会 ～議会本来のあり方～
- 議会活性化検討会議提出資料：議会報告会の運営方法、充実した議会運営のあり方について
- ・平成27年4月 議会活性化検討会議報告書

(2) 主な取組とポイント

○改革の視点

二元代表制の一翼を担う機関として、議員同士が議論する過程で、諸課題を住民に明らかにし、政策を決定する。

質疑、質問の意義の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑は議案の疑義を解明するためのものという意義の徹底（質問との区別の明確化） ・発言時間の短縮を図る。報告事項への質疑は行わない。
一般質問	<ul style="list-style-type: none"> ・行政全般について執行機関の所信を確認するという一般質問の意義の徹底 ・事業内容の確認等の発言を自粛、発言の効率化を図る
出席理事者の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・正副議長選挙など、説明の必要がない場合出席を求めない。
一問一答制の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年第1回定例会から試行、第4回から本格実施した。
常任委員会数の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・常任委員会数を4→3へ減らし、所管部局を見直した。
閉会中委員会のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・所管事務調査の具体的事項、目的などを通知した。 ・結果を本会議で報告した。 ・閉会調査事件については、特定の事件を明示し議決を得た。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要な案件の効率的審査が可能となる。 ・委員会の意思決定が可能となる。 ・委員会の機能強化、市民に対して委員会の役割を明確化する。
発言時間の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・一般質問の意義を確認し、発言時間については、検討中

(3) 質問及び回答

質 問	回 答
委員会での議員間討議はどのように実施しているのか伺いたい。	<p>現在、委員会での討議は、賛否の対応への協議が多くなっており、討議は実際なされていない状況である。</p> <p>委員会としての賛否を出す協議になっているため、委員会での委員間討議が現在も課題として残っている。</p>
代表質問は、どのように	代表質問は、当初予算における市長の施政方針時のみ行って

行っているのか伺いたい。	いる。
議会報告会で苦勞した点などを伺いたい。	議会報告会の開催に際し、何回か開催してくると、決まった方だけの出席になり、報告会でなく、意見交換にするべきであるとかの話となった。 報告会の趣旨と異なるケースが多く見られたため、現在は、報告会ではなく、意見交換会として、テーマを決め実施している。
委員などでの自由討議についてはどのように実施しているか伺いたい。	委員同士で自由に討議することは必要であるが、意見の収集がつかなくなるため、論点整理の委員会を開き、委員会の意思統一を行ってから委員会を開催し、決まった論点についての自由討議としている。

(4) 所感等

函館市議会は、議会改革を先進的に取り組み、議員同士の自由討議を重ねて委員会等を運営しており、議会の活性化が図られていると見受けられた。

本市議会においても、議会基本条例を制定したことにより、議員同士の議論を深め、議会の活性化を図れば良いと感じた。

また、議会報告会では、議会の報告をしながら意見を聴取するやり方に変え、諸問題に対して市民とともに考える姿勢が感じられた。

本市議会としても、市民との連携を積極的に推進し、開かれた議会にしていきたいと感じた。

《 北海道厚沢部町 》

◆ 厚沢部町の概要

【人口】4,049人 【面積】206.44km² 【H30一般会計予算額】4,683,000千円 【議員数】9人

厚沢部町は、檜山管内南東部に位置し、森と清流に恵まれたまちであり、国道227号線が東西に縦断し、函館バスが函館市へ5往復、江差町へ8往復運行し交通手段の確保をしている。

基幹産業は農林業であり、主な作物は、水稻、馬鈴薯、大小豆、蔬菜などであり、特に種子用馬鈴薯「メイクイン」は有名で、ジャガイモの女王メイクイン発祥の地としても知られている。林業は、産地木材を活かした家具材等の原版を生産しており、加工度の向上が期待されている。

また、町全体が山間に拓け、四季の景勝に富んでおり、土橋自然観察教育林、太鼓山、矢櫃峡等の名勝がある。



◆ 厚沢部町議会の議会報告会について

○説明者 厚沢部町議会 鈴木 祥司 議長
議会事務局 合浦 博昭 事務局長

(1) 議会報告会開催のきっかけ

厚沢部町では、「議会が何をしているのか、議員が何をやっているのか分からない。議会が町民にとって遠い存在」と言う町民の声により、平成25年度から「議会報告会」を開催している。

議会報告会は、町民の民意に応える議会を目指し、地域に出向いて町民の意見を伺うことにより、町民の声を町政に反映させるために実施している。

(2) 実施方法・課題・効果等

実施方法（内容）	<ul style="list-style-type: none">・町内の集落ごとに3地区で開催（3日間）・周知チラシは全戸配布・各常任委員会の所管事務調査の報告（30分）・町民との懇談（1時間～1時間30分）
----------	---

	・報告会開催後、議会広報紙の特集号を発行して町民に周知
参加議員	・全議員（9名）
その他	・要望等があれば、議会報告会の内容を文書で、長へ提出をしている。
課題	・参加者が固定化し、減ってきている。 ・議会報告会の内容が毎年同じようなものとして飽きられてきている。
効果	・報告会における町民の声を踏まえて議会としての要望をとりまとめ、長へ提出した結果、要望が通った。 ・議員の連帯感が生まれた。

(3) 質問及び回答

質 問	回 答
所管事務調査の項目は、どのように決めているのか。	議会報告会などにおける、町民の声や次年度の事業の内容から判断し、項目を決定している。
特集号は、編集委員が作成しているのか。また苦勞している点は何か。	議員が案を作成し、事務局が構成などの編集作業を行っている。 全てを載せることができないので、どこまでの内容を掲載するか判断が難しい。

(4) 所感等

厚沢部町議会では、議長が先頭に立ち、町民と一緒に町政を考え、要望なども長へ提出しており、町民にとって議会が身近なものになっていると感じた。

また、議会報告会の特別号を発行することにより、議会の取組を随時情報発信していると感じた。

本市議会でも、積極的に情報公開を行い、説明責任を果たしながら、更に開かれた議会を目指す必要があると感じた。